

～北海道漁業の現状と復活に向けて～

北海道は、日本海、太平洋、オホーツク海の3つの海に囲まれ、海岸線の長さは約4,400km（全国の12.5%）を有しています。

北海道の漁業生産量は全国の1/4を占め、就業者、漁船数は全国第1位となります。

北海道の漁業は古くからニシンや昆布漁が中心で、江戸時代の北前船交易で大きく発展しました。

明治40年頃からは沿岸でニシンが減少したため、大正時代からはイワシやイカを主とした漁船による漁獲が中心となっていました。昭和50年代頃から衰退してきています。

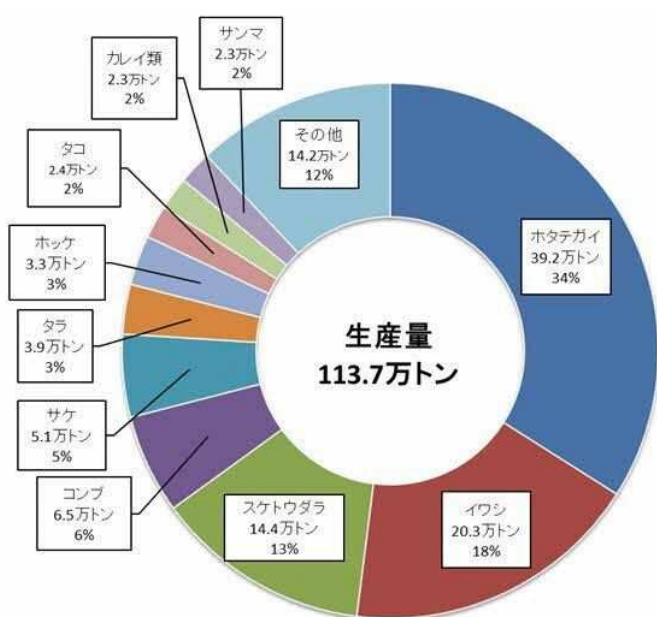
属地統計によると、2019年の海面漁業、養殖業の生産は113.7万トン、約2,400億円で都道府県別で第1位の生産規模となり、ホタテ、スケソウダラ、ホッケ、サンマ、昆布が多くを占めています。

現在、世界の漁業生産量は流通の国際化、健康食としての関心が高く、この30年間で約2倍に拡大している中、北海道だけではなく日本の水産業は生産量の減少が続いており、資源状況の悪化や生産の低迷、漁業従事者の減少など厳しい状況に直面しています。

水産庁の調査によると、日本で漁業に従事する人は約15万人（2018年）、年齢別では65歳以上が5.8万人ともっとも多く、漁業従事者の38%を占めています。

遠洋漁業や沖合漁業に従事する人達は40～59歳が主流となっています。

過去30年間で61%の従事者が減少しているが、現在では30歳以下の割合が緩やかに増加しています。仕事や価値観の多様化として関心を持つ人が増えたと考えられています。



※北海道水産林務部 2019年「北海道水産現勢」生態重量より



※水産庁「数字で理解する水産業」より

環境変化や世界情勢など、さまざまな問題が重なり合い、私自身何をしていけば改善されるのか明確な答えをだせないが、SDGsを念頭にグローバルな視点で、国内サプライチェーン改革、AI、ICT、ロボット化などを導入した大規模イノベーションが必要不可欠だと考えています。